

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 3 月 26 日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏 名	齊藤紀子
研究課題	有償ボランティアにおける互酬性の検討（ウエルビーイング研究の一環として）				
研究キーワード	有償ボランティア、贈与・交換、互酬性		当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した	
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	3. すべての人に健康と福祉を	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	該当なし	

1. 研究成果の概要

2024 年度までの研究成果の集大成として、生活支援サービスを提供する有償ボランティアの可能性（＝行政・企業・無償ボランティアが対応できないニーズに応える包摂性）と課題（＝利用者からの謝礼金がうみだす運営組織にとっての会計的ジレンマ）を明らかにした。併せて有償ボランティア活動を持続可能にするための具体的方策（「労働」ではなく「ボランティア」と位置づけ法人税非課税とすること等）を提言し、その根拠となる考え方を次のように示した：活動者が提供する生活支援サービスと利用者から受け取る謝礼金は、サービスと報酬の等価交換ではなく、支援（贈与）と返礼（反対贈与）の互酬であることから、労働ではなくボランティアと位置づけることができる。

これを、下記論文①にまとめ、学会報告⑥にて議論したのち、書籍⑤にて「社会のウェルビーイング」の概念を交えつつ発展的に明示した。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

- ① 齊藤紀子（2024）「有償ボランティアにおける謝礼金が生み出す会計的なジレンマ」一橋大学イノベーション研究センター編『一橋ビジネスレビュー』2024 AUT, 東洋経済新報社, pp. 36-48.

【著書・論文（査読なし）】

- ② 齊藤紀子（2024）「社会的課題解決を目的としたセクター間協働の発展プロセスモデル—PBL としての協働参画によって見出したモデル修正のための論点」『千葉商大論叢』第 62 巻、第 1 号、pp. 253-266
- ③ 橋本隆子・今井重男・齊藤紀子編、原科幸彦監修（2025）『CSR 研究と普及啓発』CUC サポート
- ④ SAITO, Noriko (2024) “Community Revitalization through Collaboration with “Dokonjyo-Saibai Blueberry” Producers: Practice and Research as PBL (Project-Based Learning)” 『千葉商科大学サステナビリティ研究』, 第 1 巻, pp.20-23
- ⑤ 齊藤紀子・荒川敏彦・伊藤康・権永詞編著（近刊）『(タイトル未定)』中央経済社

【学会発表等】

- ⑥ 【単独報告】「行政・企業・無償ボランティアによる対応からこぼれ落ちたニーズに応える有償ボランティア」シニア社会学会 第 23 回大会、2024 年 6 月、千葉商科大学
- ⑦ 【共同報告】「ど根性栽培ブルーベリー生産者との協働による地域活性化—実践と研究」第 17 回 HESD フォーラム、2024 年 9 月、千葉商科大学

3. 主な経費

- ・書籍／論文購入
- ・学会年会費、研究会参加費
- ・文字起こし、ネイティブチェック

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【社会貢献活動と研究との連動】一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）投資審査会議委員（2024年5月～）

JANPIA は、2018 年の休眠預金等活用法全面施行に伴い、同年 7 月に経団連により設立された。同団体は行政による対応が困難な社会的課題の解決を目指す事業を、休眠預金を活用して実施している。これまで実施してきた助成事業に加えて、新たに 2024 年度より出資事業をスタートした。本出資事業における投資審査会議委員を務めている。

本委員活動においては、社会的インパクトに関する知見が必須であり、上記書籍③にまとめた知見を活用している（今後、社会的インパクトに関する研究を継続・発展させていく予定）。

（本文は 2 ページ以内 にまとめること）